第 2012-08 号

恵みと真理のニュース

2012 年 4 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　膝を治してくださって感謝します。

イエス様について知らなかった私はイエス様を信じていない旦那に出会って結婚しました。私は5人の子どもたちを産んで育ちながら仕事をしていました。毎日忙しくて時間が過ぎることさえ知らない日々をおくりました。子どもたちが大きくなって結婚をしました。その中で娘一人がイエス様を信じていて、恵みと真理教会に通っていました。娘は私に会うたんびに福音の伝えながら、一緒に教会に行こうと誘ってきました。
そのごろ、私は悪性貧血で力がなくて、いつも元気がありませんでした。心臓も悪くなり、体あっちこっちが痛くて階段を上るだけでも息苦しくなりました。

1992年9月、娘の導きで恵みと真理教会行きました。礼拝を捧げている中で私の心は喜びでいっぱいになることを感じることができました。当会長牧師先生のメッセージが心深くまで大きな平安を与えてくれました。“わたしは、あなたがたに平安を殘します。わたしは、 あなたがたにわたしの平安を與えます。わたしがあなたがたに與えるのは、世が與えるのとは違います。あなたがたは心を澤騒がしてはなりません。恐れてはなりません。”(ヨハネ14:27)この御言葉のように礼拝を捧げる時間は平安と喜びが満ち溢れました。それだけではなく、癒しの祈りの時間には素晴らしい恵みを体験しました。当会長牧師先生が“心の中に願いがある方は胸の上に、病気を抱えている方は病気があるのところに手を置いてください。”と言いました。私は病気のあるところに手を置いて切なく祈りました。そして驚くことに、胸から何かが落ちるような感じがしたのです。礼拝が終わって教会を出る瞬間、貧血症状も息苦しかった症状も全部なくなり、悪性貧血と弱かった心臓が癒されたのです。言葉には表現できないぐらい感謝でした。空を飛ぶぐらい嬉しかったのです。

私はソウルに住んでいました。しかし、アンヤン市(ソウルから離れているところ)にある恵みと真理教会まで行くことはそんなに簡単なことではありませんでした。しかし、私は喜んで楽しく教会へ行きました。また、神様が私を救って下さったことがとても感謝だったので礼拝を捧げるたんびに感謝の涙が流れました。イエス様を知らなった今までの時間を深く悔い改めました。そして、礼拝の時間には主の恵みで満たされ、心いっぱいになりました。
私は仕事をしていたため、暇な時間がそんなに多くありませんでした。しかし、できればすべての礼拝に参加しようと頑張りました。忙しい生活の中で疲れて、決心が揺れるときもありましたが、神様の御言葉に慰められ、新たな力を得ることができました。“恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。”(イザヤ41:10)この御言葉から勇気と慰めを得ることができました。

生活が苦しくなって十分の一献金を捧げることがとても負担になりました。しかし、聖書に書いてある御言葉のどおり十分の一献金を捧げ続きました。お金額だけ考えると生活はどんどん厳しくなるはずでしたが、神様の恵みの中で生活はもっと豊かになりました。

旦那は私が教会に行くことをとても嫌に思っていました。しかし、旦那が嫌に思っているからとして、救いの道で諦めることはできませんでした。迫害していた旦那が変わって救われますようにと一生懸命に祈りました。その後、神様の恵みで旦那もイエス様を受け入れるようになりました。

1996年、家を買って引っ越しをしました。新しい家の近くに恵みと真理教会があったので信仰生活を続くことができました。そして、2001年度、権師会長に任命されました。感謝の気持ちをもって頑張って主のために働きました。しかし、2005年の夏のことです。膝の関節が悪くなって歩けられない状態になりました。私は当会長牧師先生に“膝が悪くなって今後権師として働くことは難しいと思います。”と話しました。当会長牧師先生は足の関節がすぐ治るように切なく祈ってくれました。そして再び驚くことがおきました。祈りが終わって教会を出たら、足がとても軽くなっているのを感じました。きっと神様が私の膝を治して下さってのです。私はその後も権師として頑張って働くことができました。癒しの主を賛美します。

5人の子どもたちもみんな信仰生活をしていて、とても感謝です。“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。”(ローマ8:28)この御言葉のように神様を愛し頑張って礼拝を捧げて奉仕をすることによって、神様が生活の中のすべてをで豊かにしてくださいました。私たちを救ってくださり、霊肉共に御守ってくださいました。また、いろんな恵みを与えてくださった神様を賛美します。これからもいつも神様に感謝しながらただ、主だけを仕えながらいきていきます。

［信仰コラム］　神様を喜ばせる道。

『そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。　』(Ⅱコリント5:9)

人は神様の被造物です。人が存在している理由とその目的は神様が与えてくださるのです。神様を喜ばせることが人が存在理由であり、その目的です。本当の幸せは存在や目的に相応しい人生を歩む人のものです。主を喜ばせることは何であるのか、分別するべきです。また、そのために聖書をちゃんと分かるべきです。それでは、聖書に啓示された神様を喜ばせる道について調べます。

罪人は神様に戻るべきです。イエス様がおっしゃっていた次男とお父さんの例え話のなかで説明しています。その話とは、次男がお父さんにおねだりをしてお父さんの財産の中で自分の分の遺産を先に受け取りました。それで次男は家を去り、遠いところに行きました。最初はたくさんのお金を持っていたため、たくさんの友達が近づいてきました。そしてジお父さんの元を去った息子はみんなで放蕩な日々を過ごしました。しかし、何日も経ってないうちにお父さんからもらったお金はすぐなくなってしまいました。何も食べられなく、たくさんの友達も離れてしまい、孤独の中で次男は自分の罪を認め、お父さんの元へ戻って許してもらうことを決心しました。そのときお父さんは毎日次男が戻って来ることを待ちながら、遠くまで行って首を長くしていました。次男が帰ってくるその日、お父さんは歩いて来ている息子を見つけました。素足で走っていて息子を抱きついて、頬に口づけし、二人は泣きました。息子はその口づけでお父さんの愛と許しを感じることができました。しかし、申し訳ない気持ちで、お父さんと呼ぶことができませんでした。お父さんはその息子にすぐ新しい服を与えさせ、パーティーを開くように下部たちに頼みました。このように罪人が神様の元へ戻って来ることは神様が喜ぶことです。罪人が神様の元へ戻る道はたった一つ、イエスキリストを信じること、神様を喜ばせることの中で一番はイエスキリストを心から信じることなのです。

不信者に福音を伝えるべきです。失った一匹の羊を探すために飼い主がどんな苦労と苦痛、犠牲も惜しまず探します。そして、失った羊をやっと見つけた飼い主はその羊を頭の上に上げて叫びます。“私と共に喜ぼう。私の失った羊を見つけた。”

救われた人たちにより、天国では喜びと歓声が沸いています。天国にいる民たちや天使たちが主と共に喜びます。失った人々が主の前に来て、救われることは神様が喜び、天国にも大きな喜びが満ち溢れます。

失ったドラクマは銀で作ったお金なので命がありませんでした。そのドラクマは自分が失われた事実も知らず、それを持っていた人が自分を探していることさえ知りません。この例え話の失われたドラクマは救いに関して徹底的に無能力な人々を指しています。

福音を聞いて救いの恵みと真理を悟ること、悔い改めてイエスキリストを信じ、受け入れることは人の知恵と知識、維持でできることではありません。それは聖霊様の働きによることを意味しています。

ドラクマを探すために灯火を付けた女性がいました。彼女はドラクマさえ見つければ火を付けるためにかかる費用なんて関係ありませんでした。一人の魂が天下より大事なのです。魂を主に導くため、私たちが使ったものは何でももったいないことはありません。一人の罪人を救いの道へ導いたことは、罪人を導いた人の喜びだけではなくて、天使たちの喜びであります。そして、何よりも主なる神様が喜びます。

不信者が福音を聞いてイエスキリストを救い主と信じて受け入れること、また、救われていない人々に聖徒たちが一生懸命に福音を伝えることこそが神様を喜ばせることなのです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

一番有害な欠乏

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

モーセに導かれほとんど２００万人を超えるイスラエル子孫たちがエジプトから離れました。ですが、その中で二十歳以上の何人かを除いて皆荒れ野で死んでしまいました。
彼らは乳と蜜に溢れるカナンへ行こうと出発しましたが、その地には入れなくて死にました。私たちはその理由を確実に分からなければなりません。なぜならば、天国へ向かって進んでいる私たちにとってほんとうに貴重な教訓になるからです。
コリント一書10章11節には**「これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです」**（コリント一書10：11）としました。
　旧約聖書民数記１４章にその理由が記された。**『私の栄光、私がエジプトの荒れ野で行ったしるしを見ながら、十度も私の試み、私の声に聞き従わない者はだれ一人として、私が彼らの先祖たちに誓った土地を見ることはない』**（民１４：２２-２３）としました。
　新約聖書ヘブライ３章に「いったいだれが、神の声を聞いたのに、反抗したのか。モーセを指導者としてエジプトを出たすべての者ではなかったか。いったいだれに対して、神は四十年間憤られたのか。罪を犯して、死骸を荒れ野にさらした者に対してではなかったか。いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、誓われたのか。従わなかった者に対してではなかったか。このようにして、彼らが安息にあずかることができなかったのは、不信仰のせいであったことがわたしたちに分かるのです。（ヘブライ３：１６－１９）としました。
　結局、イスラエルの子孫たちの信仰と従順の欠乏が荒れ野で捨てられ絶滅した原因でした。彼らの信仰と従順の欠乏は恨みと不平で現れています。
本日の民数記１４章２２節に１０回も指摘された事件を調べて見ましょう。

第一、紅海辺に宿営を張った時、エジプトの軍隊に追撃されたことです。

エジプトから離れたイスラエルの子孫はどうしようも無い危機に直面しました。彼らの目前には紅海が横たわっていました。
イスラエルの人々は慌てて恨み、不平を言いました。この時、モーセは神が前以て話したみ言葉を想起して叫びました。**『恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。』**（出１４：１３）イスラエルの人々が不安で恨んだのは神のみ言葉に対する信仰の欠乏から及んだのでした。

第二、シュルの荒れ野のマラであった事件です。

イスラエルの人々は紅海の底の乾いた所を歩いて行きました。彼らの後を追って紅海に入ったファラオの全軍を海の水が襲い、一人も残らず死んでしまった。
絶対絶命の危機で奇跡的に救われたイスラエルの人々は感激して神を賛美しました。
そして彼らはシュルの荒れ野に向かって、荒れ野を三日の間進んだが、水を得なかった。
人々が水溜りを見つかり、喜んで走り水を飲みましたが吐き出しました。そこの水は苦くて飲むことができなかった。民たちはモーセを恨みました。
モーセが主に向かって叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。
その木を水に投げ込むと、水は甘くなった。彼らは恨んだのは神様の能力への信仰が欠けていたからでした。

第三、シン荒れ野であった事件です。

イスラエルの人々の共同体全体はエリムを出発し、エリムとシナイとの間にあるシンの荒れ野に向かった。
イスラエルの人々の共同体全体はモーセとアロンに向かって不平を述べ立てた。**『神様は、天からパンを降らせる。民は出て行って、毎日必要な分だけ集める。わたしは、彼らがわたしの指示どおりにするかどうかを試す。主が命じられたことは次のことです。あなたたちはそれぞれ必要な分だけを取ること。ですが、だれもそれを、翌朝まで残しておいてはならない』**と言ったが、彼らはモーセに聞き従わず、
また、**『今日はそれを食べなさい。今日は主の安息日である。今日は何も野に見つからないであろう。あなたたちは六日間集めた。七日目は安息日だから野には何もないであろう。』**七日目になって、民のうちの何人かが集めに出て行ったが、何も見つからなかった。
彼らを荒れ野で導き飢え死に致すと恨んだのと守るべきの事項を不従順したのは信仰が欠けているからでした。

第四、レフィディムでのことです。

イスラエルの人々は飲み水がなかったので、モーセを恨み、神を試みした。
「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。と言われそのとおりに行いました。
イスラエルの子孫がモーセを恨み、神様を試したのは神様への信仰が欠けていたからです。

第五、人々が雄牛の金像を造って崇拝したことです。

モーセが神様に呼ばれ、シナイ山へ上りました。モーセが山からなかなか下りて来ないのを見て、民は全員、着けていた金の耳輪をはずし彼はそれを受け取ると、のみで型を作り、若い雄牛の金像を造って崇拝しました。
これによって神様は怒り、イスラエルを絶滅させようとしましたが、モーセが切に叫ぶのを聞いて主は御自身の民にくだすと告げられた災いを思い直された。
イスラエルの人々のこのような行動は神様への従順が欠けているからです。

第六、タブエラであった事件です。

イスラエル民が主の耳に達するほど、激しく不満を言った。
主はそれを聞いて憤られ、主の火が彼らに対して燃え上がり、宿営を端から焼き尽くそうとした。（民数記１１；１-３）
モーセが主に祈ると、火は鎮まった。
神様に悪口で恨んだのは神様の導きへの従順と信仰が欠けていたからでした。

第七、キブロト.ハタアワ（貪欲の墓）であった事件です。

イスラエルの人々は**『マナばかりで、肉もない』**と不満を言った。
神はうずらを飛ばしイスラエル人々の幕屋の四方へ落してくれました。また、供に災いを下し民たちを打ちました。
マナに対して感謝せず、むしろ神様を恨んだのは神への信仰が欠けているからでした。

第八、ハラン荒れ野のカデシュ.バルネアであった事件です。

イスラエルの民たちがついにカナンに近づいて、モーセは１２人の探りの人々をカナンへ遣わしました。
彼らは、四十日の後、彼らは土地の偵察から帰って来た。ヨシュアとカレブを除いた１０人は彼らが偵察した地を悪評して否定的な報告をしました。
その報告を聞いた民たちは気を下ろし、共同体全体は声をあげて叫び、民は夜通し泣き言を言った。しかし、ヨシュアとカレブが民たちの決心を変えようと頑張ったが、むしろ民たちはヨシュアとカレブを石で打って殺そうとしました。
神は偵察の１０人を殺しました。それに民たちを３８年の間を荒れ野で放浪生活をさせました。その結果、エジプトから離れる当時２０歳以上の大人の中でヨシュアとカレブ以外はカナンへ入らなくて死にました。
このような悲劇は神様への従順と信仰が欠けているからでした。

第九、モーセとアロンへ与えられた神様への権威に対抗した事件です。

反逆の主動者はコラ,ダタンとアビラムです。
彼らはリーダだちの中で影響力のある２５０人を参加させ同調者にしました。彼らはモーセとアロンの指導権へ対抗しました。
この反逆事件は神様の介入で鎮圧されました。
コラ,ダタンとアビラムが立っていた地は口を開き、彼らとコラの仲間たちを生きたまま呑み込みました。
また火が主のもとから出て、香をささげた二百五十人を焼き尽くしました。
これに抗議した彼らを従っていた人の間に疫病が広がり始めて、４７００人が死んでしまいました。
反逆者たちには神様によって任せられた権威を尊重し、従順する行いが欠乏していました。

十番目、炎の蛇に噛まれて死んでしまった事件です。

砂漠にあるファラオの荒れ野を通過するときイスラエルの民たちが荒い道でつらかっで食べ物と水により神とモーセに逆らって言いました。
主は炎の蛇を民に向かって送られた。蛇は民をかみ、イスラエルの民の中から多くの死者が出た。
民はモーセのもとに来て言った。「わたしたちは主とあなたを非難して、罪を犯しました。主に祈って、わたしたちから蛇を取り除いてください。」モーセは民のために主に祈った。
モーセは民のために主に祈った。
主はモーセに言われた。「あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る。」
モーセは青銅で一つの蛇を造り、旗竿の先に掲げた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た。
人々は道が険しいと恨み、食べ物や水によって恨んだのは神様への信仰に欠けているからです。神が彼らに求めたのはただ信仰と従順だけでした。神様のみ言葉への信仰と従順だけです。

神様のみ言葉への信仰と従順の欠乏よりもっと悪い欠乏はありません。
神様のみ言葉への信仰と従順さえあれば、他の欠乏は神様が最善の方法で解決してくださいます。
神様のみ言葉に対して信仰と従順で生きている人々には必ず表われる現状があります。これは常に神様へ感謝する態度です。常に神様に感謝すれば信仰や従順ができます。

信仰や従順の欠乏は感謝の欠乏と関係あるのが分かります。
私たちの生涯にどういう欠乏が悪い欠乏であるのかといえば、一番悪い欠乏は神様への信仰の欠乏、従順の欠乏それに感謝の欠乏です。
愛する皆さんは自分に神様への信仰、従順、感謝の欠乏がないのではないかいつも調べて見てください。それで常に信仰や従順、感謝が生活の中で満ち溢れるのを祝福致します。アーメン